

北西部Aグループ

(関係市町村: 奈良市、生駒市)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
奈良市、生駒市
- **主な公共交通機関**
 - ・近鉄京都線(高の原駅～大和西大寺駅:3駅)
 - ・近鉄けいはんな線
(学研奈良登美ヶ丘駅～生駒駅:4駅)
 - ・近鉄奈良線(東生駒駅～大和西大寺駅:5駅)
 - ・奈良交通(富雄庄田線 学園前相楽線)
 - ・コミュニティバス:たけまる号(生駒市)
- **主な利用データ**
〔主要駅乗車人員〕
 - ・高の原駅 30,014人/日(R4)
 - ・富雄駅 24,863人/日(R4)
 - ・白庭台 8,775人/日(R4)
 - ・学研北生駒 5,618人/日(R4)
 - ・学研奈良登美ヶ丘 13,330人/日(R4)
 〔バス路線情報〕
 - ・富雄庄田線:5診断指標のうち、平均乗車密度、収支率の2指標が未達(R3～)

- **関係情報**
 - ・近鉄けいはんな線の沿線には多くの学校が所在
 - ・富雄庄田線では、奈良交通より路線の見直しに向けた申し入れが行われている
 - ・沿線の高山サイエスタウンには、奈良先端科学技術大学院大学など7団体が立地
 - ・高山第2工区の整備が予定(R4.6月にマスタープラン策定)
 - ・富雄庄田線北部では、くろんど池自然公園や生駒北スポーツセンターなど、家族向けの施設が所在
 - ・高山竹林園のイベント(高山竹あかり)には約3,000名が来園
 - ・長弓寺はあじさいの名所になっており、開花期には多くの人を訪れる
 - ・県では生駒市のコミュニティバスにおけるクロスセクター効果の算定を実施

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・富雄庄田線:診断指標5項目の達成

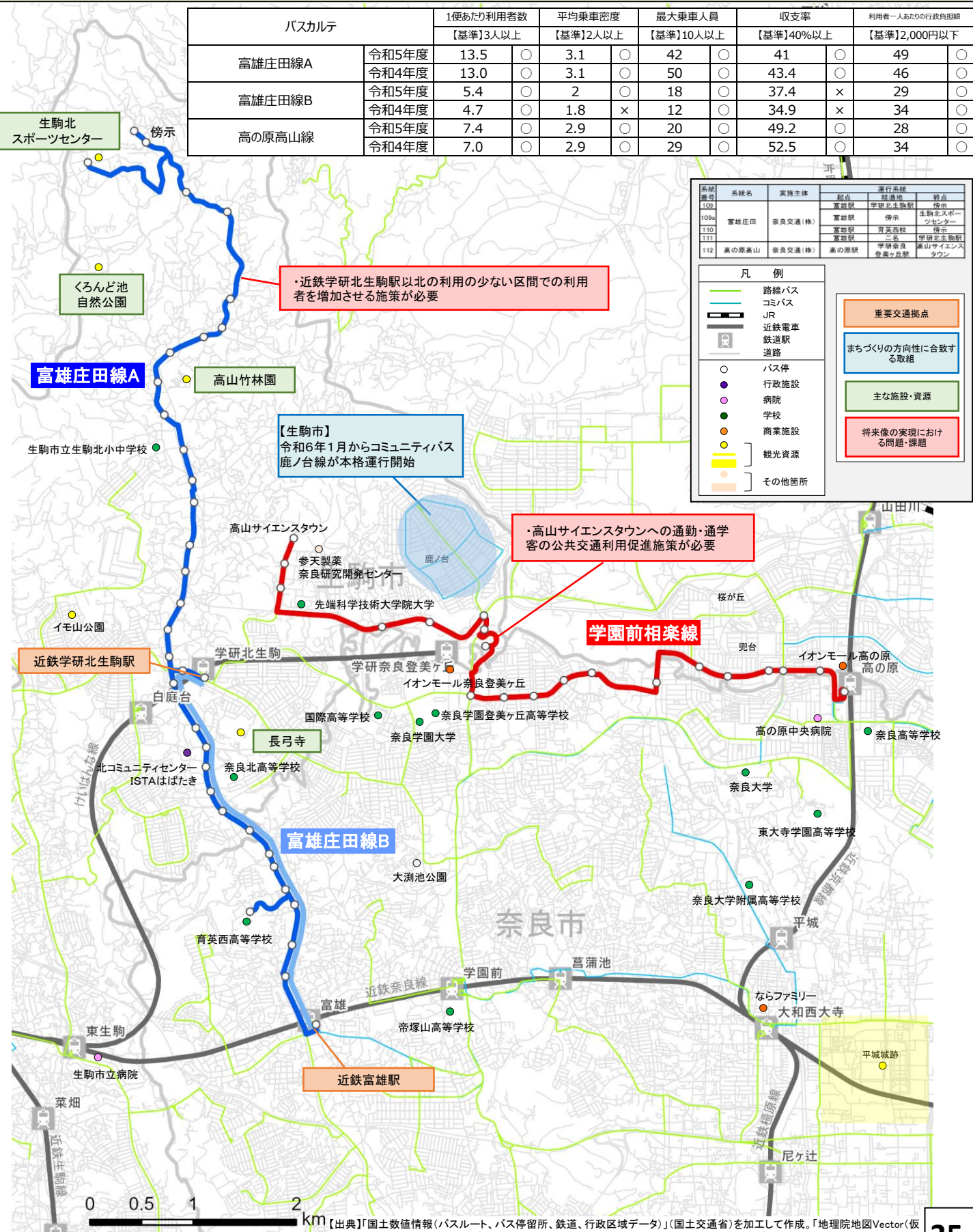
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 富雄庄田線は高山地区の沿線住民にとって貴重な足となっている
 - 学園前相楽線は、京都方面から奈良先端科学技術大学院大学へ向かう一定の利用が見られる
- 【課題】
 - 事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある(富雄庄田線)
 - 富雄庄田線で路線見直しが検討されており、既存路線の収支改善や最適な公共交通の再構築が求められている
 - 沿線に所在する家族向けの施設や大学、企業へのアクセスに公共交通を利用してもらうための取組が必要

取組の方向性

- 住民向け— 【目標】通院・買い物等における公共交通手段の確保・維持
- 住民(利用層/非利用層)のニーズ把握
- 沿線の施設利用者向け—
【目標】沿線への通勤・通学者の公共交通手段の確保・維持
- 駅から大学・企業等までの移動手段の確保・充実
- 通勤・通学者の移動ニーズに応じた公共交通の充実
- 観光客向け— 【目標】くろんど池自然公園、高山竹林園の利用者の公共交通利用増
- 拠点駅から観光施設までの移動手段の確保・情報発信

まちづくりの方向性(イメージ図)



: 重点取組事項

住民向けの取組

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	奈良市、生駒市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	住民の公共交通の認知度向上による利用促進
取組内容	・広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す
実施主体・協力主体	生駒市、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	ノンステップバスの導入
取組内容	・当該地域を運行する路線バスのバリアフリー対応を促進するため、路線バス車両のノンステップバスへの更新に係る経費の一部を市が補助する、
実施主体・協力主体	奈良市・奈良交通
実施効果	公共交通の移動等円滑化の促進
実施期間	R5.4～

取組名	富雄庄田線の見直しによる、高山地区住民の移動手段確保
取組内容	・路線再編を見据えた、住民の移動ニーズをカバーする交通モードと利用促進策の検討
実施主体・協力主体	生駒市、奈良県、奈良交通
実施効果	地域住民の利便性向上、公共交通利用率の増加
実施期間	R6.4～

取組名	バス停留所の整備
取組内容	バス停留所の利用環境を向上させるため、富雄庄田線のバス停留所の上屋を整備する。
実施主体・協力主体	生駒市・奈良交通
実施効果	バス停留所の利用環境向上、路線バスの利用促進
実施期間	R6.1～

観光客向けの取組

取組名	イベント等における公共交通利用促進
取組内容	・くろんど池自然公園、高山竹林園、長弓寺のあじさいなど沿線の魅力発信を進めるとともに、公共交通を利用したアクセスについてPRする
実施主体・協力主体	生駒市、奈良県、奈良交通
実施効果	観光客の公共交通利用促進
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

沿線の施設利用者向けの取組

取組名	通勤・通学における公共交通利用の拡大
取組内容	・高山サイエンスタウンへの通勤・通学需要の取込みに向けた利用促進策の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通・奈良先端科学技術大学院大学・高山地区立地施設等連絡協議会・奈良県・奈良市・生駒市
実施効果	通勤・通学における路線バスの利用増
実施期間	R5.4～

取組名	学生への公共交通のPR
取組内容	・留学生も多い奈良先端科学技術大学院大学の学生に対し、鉄道や路線バスといった公共交通について知ってもらい、利用促進を行う
実施主体・協力主体	奈良先端科学技術大学院大学、交通事業者
実施効果	学生の公共交通利用増
実施期間	R5.4～

○北西部Aにおける重点取組事項について

○富雄庄田線の見直しによる、高山地区住民の移動手段確保

重点取組事項のねらい	高山地区における持続的な公共交通サービスの提供
実施効果	地域住民の利便性向上、公共交通利用率の増加
活用する支援制度	公共交通基本計画推進支援事業

		1年目(R6)	2年目(R7)	3年目(R8)～
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や利用実績等に基づくデータ分析(移動ニーズ把握・潜在需要の把握) バス路線利用増加に向けた課題整理 路線再編を見据えた、住民の移動ニーズをカバーする交通モードと利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や利用実績等に基づくデータ分析(移動ニーズ把握・潜在需要の把握) バス路線利用増加に向けた課題整理 路線再編を見据えた、住民の移動ニーズをカバーする交通モードと利用促進策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 再編路線の運行開始 広報活動の実施 利用促進策の検討
役割分担	奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 収支改善策の検討 路線再編に係る調査検討の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 収支改善策の検討 路線再編に係る調査検討の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 広報の支援 利用実態調査の実施支援
	生駒市	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討 利用実態調査等を実施し、既存路線の収支改善や最適な公共交通の再構築を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討 利用実態調査等を実施し、既存路線の収支改善や最適な公共交通の再構築を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 利用実態調査の実施 広報等による周知の支援
	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 再編後の路線利用データの整理・分析(バス事業者)
関係する補助		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業

運行年度は、前年10月～当年9月

北西部Bグループ

(関係市町村:奈良市、大和郡山市)

路線・地域の概要

●関係市町村

奈良市、大和郡山市

●主な公共交通機関

- JR 大和路線
- 近鉄 奈良線 京都線 橿原線
- 奈良交通(郡山若草台線)
- コミュニティバス: 元気城下町号・元気治道号(大和郡山市)
- 施設バス: 奈良県総合医療センターによる無料送迎バス(R2.1月~)

●主な利用データ

- JR郡山駅 乗車人員 4,709人/日(R4)
- 近鉄郡山駅 乗車人員 8,129人/日(R4)
- 奈良交通郡山若草台線: 診断指標達成(R5年度)しており、利用者数は前年比増、利用者一人あたりの行政負担額減少傾向

●関係情報

- 令和5年2月、近鉄郡山駅移設に関する役割分担や費用負担につき、基本協定を県・大和郡山市・近鉄の三者で締結
- 奈良県総合医療センターの移転開院(H30.5月)に伴い、同センターの玄関口に乗り入れ[H30.3月~]バス情報表示装置の設置(H30.3月)
- 郡山城跡は国史跡として指定された(R4.11月)
- 郡山城跡公園は、さくら名所100選に選ばれており、毎年、春に開催される「大和郡山お城まつり」には多くの人を訪れる
- (公財)郡山城史跡・柳沢文庫保存会による大和郡山市城内町の修景整備工事(番屋等の改修等)が令和4年4月に完成し、カフェや休憩所として利用できるようになった
- 踏切による渋滞の緩和対策として、都市計画道路城廻線の整備が進んでいる(R7年度)
- 令和5年10月の路線再編により、路線短縮

●令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- 郡山若草台線: 診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 奈良県総合医療センターと近鉄郡山駅を結ぶ路線
- 奈良県総合医療センターが路線バスの乗り換え拠点となっており、その施設への行き来に一定数の利用があるが、買い物や通勤・通学等での利用が主
- 城廻線の整備により交通アクセスが向上
- 沿線の郡山城跡が国史跡に指定されている

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- 沿線に施設が少ないため、路線の維持に向け、公共交通の利用促進策が課題

取組の方向性

ー奈良県総合医療センターへの通院者向けー

【目標】公共交通を利用した通院需要の取込

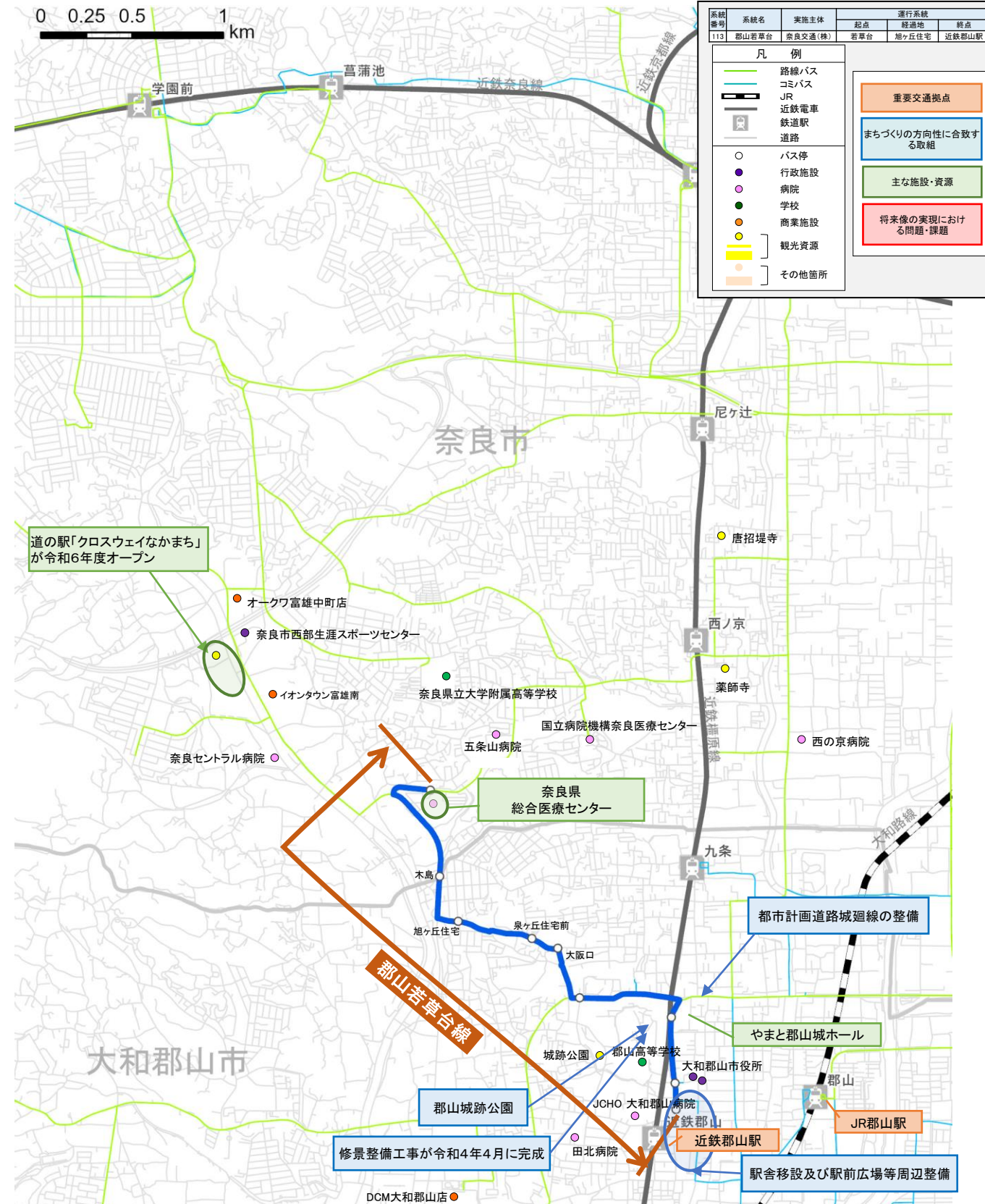
- 来訪者のニーズ把握
- 来訪者に対する公共交通利用促進施策の実施
- 奈良県総合医療センターが運行するバスとの役割分担の見直し
- 病院に勤務されている人に対する公共交通利用促進施策の実施

ー住民向けー

【目標】買い物・通勤・通学等、必要な用事を車がなくても便利に

- プロジェクトと連携した公共交通利用促進策の検討・実施
- 通勤・通学需要を取り込むための効果的な広報の実施

まちづくりの方向性(イメージ図)



バスカルテ		1便あたり利用者数	平均乗車密度	最大乗車人員	収支率	利用者一人あたりの行政負担額
		【基準】3人以上	【基準】2人以上	【基準】10人以上	【基準】40%以上	【基準】2,000円以下
郡山若草台線	令和5年度	6.8	2.5	22	45.5	29
	令和4年度	6.2	2.3	26	45.8	48

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

奈良県総合医療センター通院者向けの取組

取組名	病院通院者に対する公共交通利用促進策の実施
取組内容	・通院者の移動ニーズを調査・分析し、利用に便利な交通手段として認知されるよう、広報誌やSNS等を通じて住民へ周知する取組の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	病院に勤務されている人に対する公共交通利用促進策の実施
取組内容	・病院への通勤需要を取り込むため、病院に勤務されている人向けの公共交通利用促進策の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、奈良県、奈良交通
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

住民向けの取組

取組名	近鉄郡山駅移設事業の推進
取組内容	・令和5年2月に締結した近鉄郡山駅移設に関する基本協定に基づき、駅舎移設及び駅前広場等周辺整備を推進 ・駅移設、バスターミナル整備と連動した公共交通アクセスの改善
実施主体・協力主体	大和郡山市、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	通勤・通学需要の取込
取組内容	・朝の通勤・通学時間と運行ダイヤを調整し、通勤・通学需要の取込を図るため、広報誌やSNS等を活用
実施主体・協力主体	奈良交通、奈良市、大和郡山市、奈良県
実施効果	バス利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	公共交通の乗り継ぎ利便性の向上
取組内容	・路線バスの乗り継ぎ拠点である奈良県総合医療センターにおいて、公共交通の利便性向上に向けた取組を検討・実施（郡山若草台線の再編時には協議により乗り継ぎ時間の調整等を実施）
実施主体・協力主体	奈良市、奈良交通
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R5.10～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	大和郡山市、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

北西部Cグループ

(関係市町村:香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町)

路線・地域の概要

- **関係市町村**
香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 大和路線 和歌山線
 - ・近鉄 田原本線 生駒線
 - ・奈良交通(信貴山線 白鳳台住宅線 三郷線)
 - ・コミュニティバス:カシバス(香芝市)、あいばす(平群町)、上牧町コミュニティバス、すな丸号(河合町)
- **主な利用データ**
 - ・乗車人員 JR畠田駅 1,403人/日(R4)
 - JR王寺駅 20,986人/日(R4)
 - JR三郷駅 1,552人/日(R4)
 - 近鉄信貴山下駅 2,232人/日(R4)
 - 近鉄王寺駅 8,570人/日(R4)
 - 近鉄新王寺駅 6,067人/日(R4)
 - ・奈良交通信貴山線:診断指標5項目達成
 - ・奈良交通白鳳台住宅線:診断指標5項目達成
 - ・奈良交通三郷線:診断指標5項目達成

- **関係情報**
 - ・年間15万人が訪れる信貴山のどか村に温泉施設「信貴の湯」がオープン(R3.10月)
 - ・王寺駅周辺のまちづくりが進行中
 - ・王寺町の美しヶ丘地区で2年間の電動カート実証実験を開始(R5.3月～)
 - ・三郷町では、インバウンド需要に備えて多言語化に取り組み、デジタル版パンフレットの作成を検討(まちづくり総合戦略)
 - ・三郷町版MaaSの導入検討(三郷町スマートシティ構想)
 - ・三郷町のFSS35キャンパスでR5年施設がオープン
 - ・令和5年度にJR三郷駅～FSS35キャンパスで自動運転実証実験(R6.2.28～R6.3.9)
 - ・香芝市コミュニティバスの利用者の範囲が拡大し、観光客や市外在住の方も利用可能に(R3.4月～)
 - ・畠田駅前整備
 - ・「WEST NARA わんデイパス」発売
法隆寺や信貴山などを巡る(奈良交通)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - ・信貴山線、白鳳台住宅線、三郷線:診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - このエリアにあるバス路線の大半は、地域住民や免許返納した高齢者の通院や買い物利用に不可欠な路線となっており、利用者の大半は王寺駅に向かう通勤・通学者となっている
 - 王寺駅を拠点に、周辺各地域への公共交通網が構築されている
 - 白鳳台住宅線、三郷線について、昼間の利用者数が少なくなっている
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 交通手段として、公共交通利用への仕掛けが必要
 - 高齢者に対してバス停までの移動手段の確保
 - 法隆寺、馬見丘陵公園といった集客力のあるスポットと信貴山、達磨寺をつなぐ公共交通の利用促進施策が必要

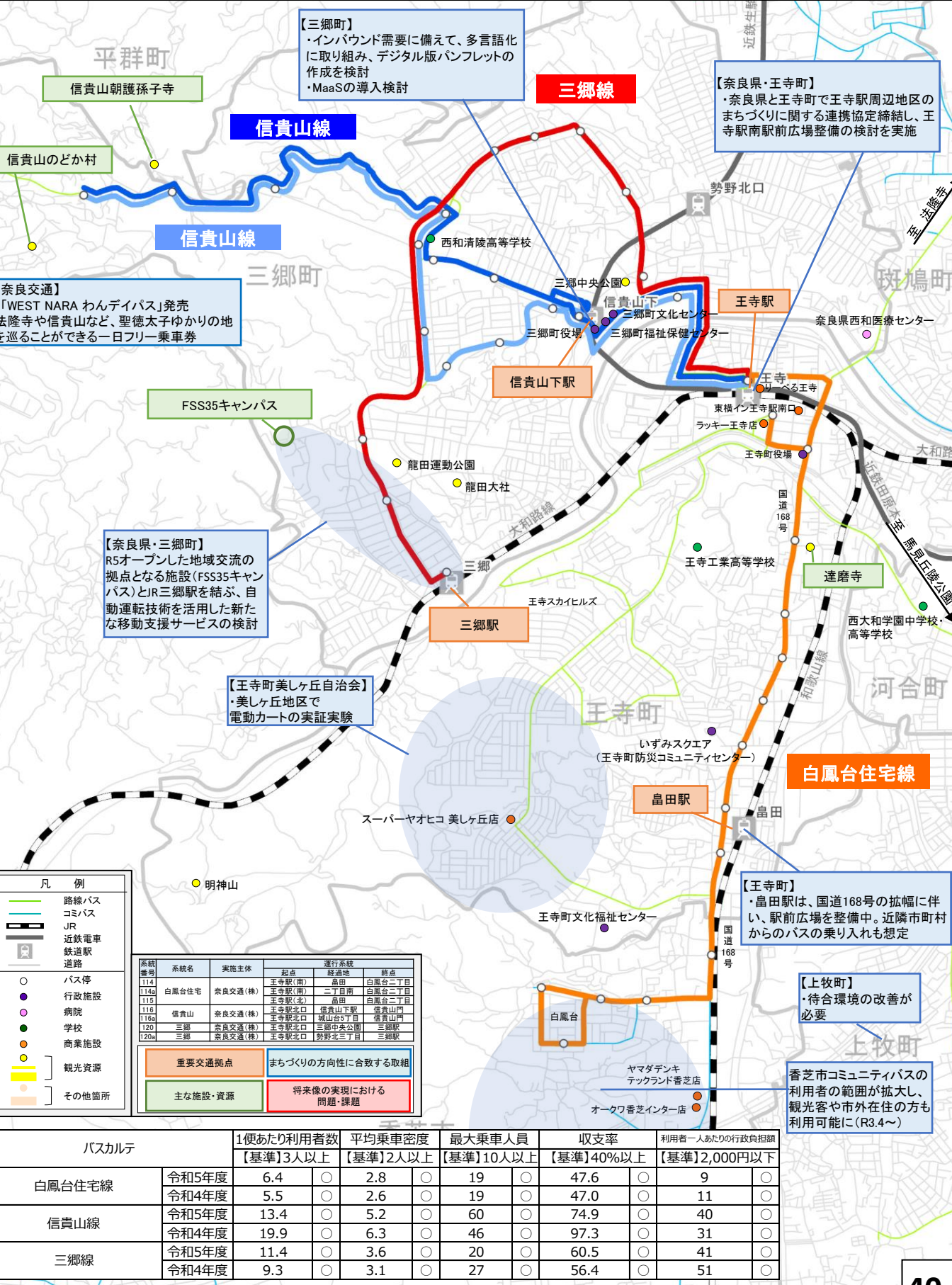
取組の方向性

- 住民向け —
- 【目標】交通利便性の高い利用環境の構築
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 王寺駅・畠田駅を拠点に利便性の高い二次交通の構築
- 公共交通利用促進を図るため、ラストワンマイル対策の取組の検討・実施
- 通勤・通学者の公共交通利用促進に向けた取組の実施

- 観光客向け —
- 【目標】公共交通を利用した観光客増に向けた取組強化

- 公共交通を利用した観光モデルルートの立案・周知
- 観光施設と連携した公共交通利用促進策の検討・実施
- 法隆寺や馬見丘陵公園と信貴山や達磨寺等の双方に訪れてもらうための情報発信

まちづくりの方向性(イメージ図)



住民向けの取組

取組名	王寺駅を核とした効率的な公共交通ネットワークの構築
取組内容	・王寺駅を拠点とした効率的なモビリティについて検討・実施
実施主体・協力主体	香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	自動運転技術を活用した新たな交通サービスの検討
取組内容	・地域の移動に関する課題解決に向けJR 三郷駅～FSS35キャンパス間で自動運転の実証実験を実施。
実施主体・協力主体	国、奈良県、三郷町
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R4.2～

取組名	田原本線におけるサイクルレインの実施
取組内容	・令和4年度に開始したサイクルレインを継続実施 ・公共交通の利用促進や観光誘客にも活用
実施主体・協力主体	近畿日本鉄道、奈良県
実施効果	鉄道利用者数の増加
実施期間	R4.4～

取組名	コミュニティバスおよびデマンド交通の利用状況の分析を行い、利用促進策を検討
取組内容	・コミュニティバスおよびデマンド交通の利用実績や香芝市地域公共交通計画に掲げる評価指標の根拠データを基礎資料として、協議会での関連な審議を図るため、利用状況や目的に応じた施策の効果検証等について分析・整理する
実施主体・協力主体	香芝市、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	バス停留所に新たに上屋を設置
取組内容	・バス停設置基準に基づいた歩道幅員を確保できる箇所について、町内の主要施設が集中する区域を中心に歩道の形状に合わせた上屋を設置する
実施主体・協力主体	上牧町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	畠田駅前広場の整備に合わせた公共交通との連携
取組内容	・王寺町で検討中の畠田駅前広場の整備に合わせて、路線バスの効率化を図るなど、利便性の向上を検討
実施主体・協力主体	王寺町、香芝市、上牧町、河合町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	高齢者への移動支援策 ～平群町デマンド型乗合タクシー～
取組内容	・現在の公共交通機関等では支援できない交通弱者の移動支援のため、デマンド型乗合タクシーを実施
実施主体・協力主体	平群町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R3.10～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	香芝市、上牧町、河合町、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

取組名	バス停の待合環境の向上
取組内容	・国道168号の拡幅整備に合わせて、順次バス停上屋を整備
実施主体・協力主体	王寺町、奈良県
実施効果	利便性の向上
実施期間	R3.4～

取組名	王寺駅南駅前広場の再整備
取組内容	・一般車両、公共交通、歩行者の動線の分離や待合環境の向上等を目的として、王寺駅南駅前広場の再整備を検討・実施
実施主体・協力主体	王寺町、JR西日本
実施効果	利便性及び安全性の向上
実施期間	R30.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

観光客向けの取組

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	アフターコロナを見据えた公共交通を利用した観光についての広報
取組内容	・当エリアは観光利用が比較的多いため、アフターコロナを見据えた公共交通を活用した周遊観光について検討・実施
実施主体・協力主体	香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

北西部Dグループ

(関係市町村: 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町)

路線・地域の概要

●関係市町村

奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町

●主な公共交通機関

- JR 大和路線・桜井線(万葉まほろば線)
- 近鉄 奈良線、橿原線
- 奈良交通 奈良法隆寺線、王寺シャープ線

●主な利用データ

- JR奈良駅 乗車人員 15,303人/日(R4)
- JR法隆寺駅 乗車人員 6,381人/日(R4)
- JR郡山駅 乗車人員 4,709人/日(R4)
- JR王寺駅 乗車人員 20,986人/日(R4)
- 近鉄奈良駅 乗車人員 49,225人/日(R4)
- 近鉄王寺駅 乗車人員 8,570人/日(R4)
- 近鉄郡山駅 乗車人員 16,258人/日(R4)
- 近鉄筒井駅 乗車人員 7,369人/日(R4)
- 奈良交通奈良法隆寺線、王寺シャープ線: 診断指標5項目の達成

●関係情報

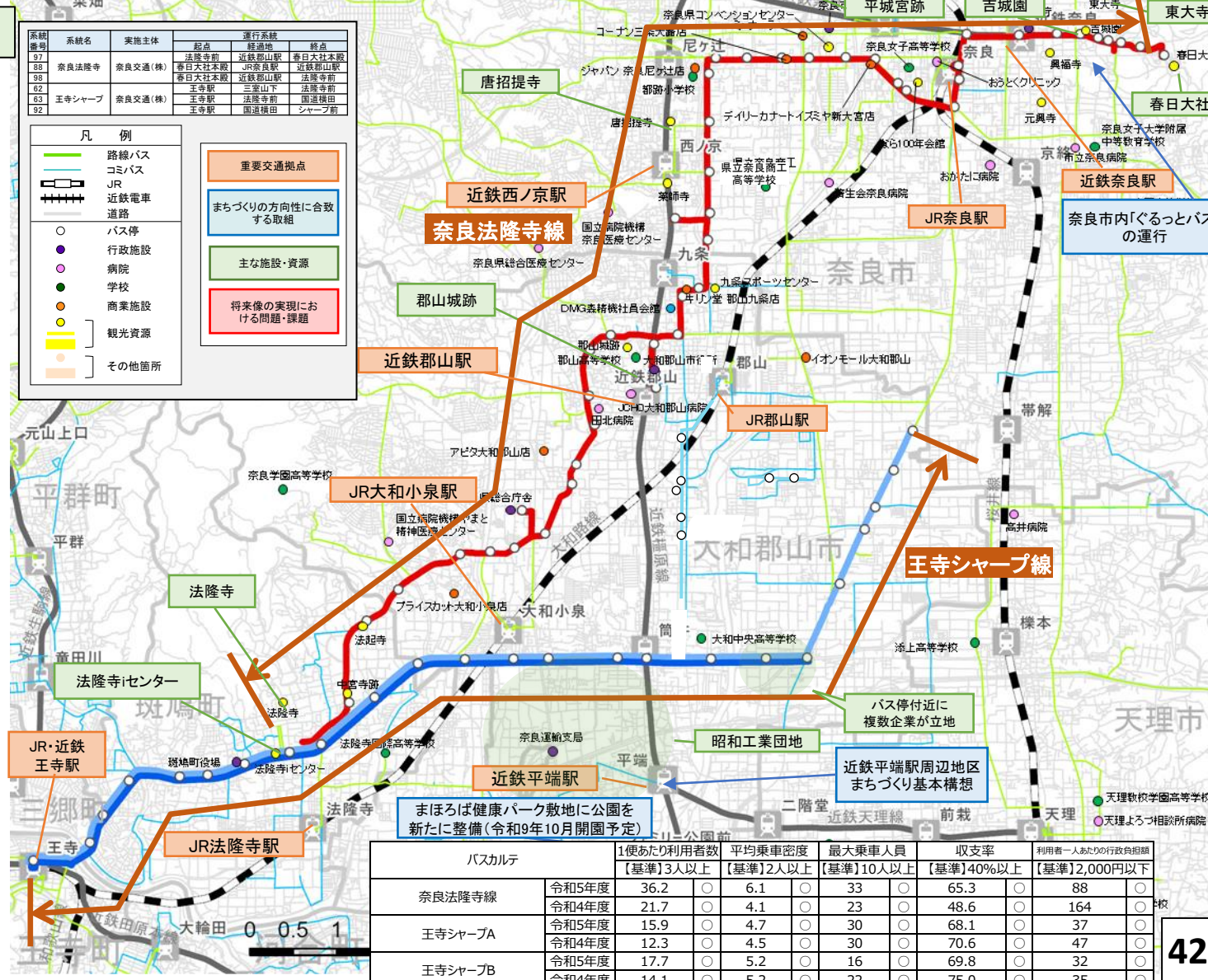
- 近鉄郡山駅の移設に関し、令和5年2月に基本協定締結
- 大和中央田園都市構想の推進に関し、県と磯城郡3町が包括的な協定を締結(R5.2月)
- 奈良公園バスターミナル(H31)、奈良県コンベンションセンターバスターミナル(R2)を設置し、観光客等の受入拠点の整備

- 周辺に3つの鉄道駅が立地している昭和工業団地では、駅からの二次アクセスの向上を目指して、市町村と企業との連携や企業間の連携を検討する
- 令和3年度に「まちの玄関口」結崎駅前広場が完成し、交通結節点としての機能が強化
- 奈良市中心市街地の鉄道駅や観光拠点を結ぶ「ぐるっとバス」の大宮通りルートに大和西大寺駅南口停留所を新設
- 郡山城跡は国史跡として指定された(R4.11月)
- 『奈良吉城園計画(新規ホテル開発)』着工(R4.2月)
- サイクルアンドバスライド実証実験(R4~)
- 特急「まほろば」号運行再開(R5.3月)
- JR大和路線に有料座席サービス快速「うれシート」導入(R5.10月~)※R6.3月~から拡大
- 世界遺産6社寺拝観券とJR自由周遊区間がセットになった「古都奈良デジタルパス」発売(R5.10月~R6.2月)
- 近鉄ファミリー公園前駅について、バリアフリー化実施の可否等を検討

●令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- 奈良法隆寺線、王寺シャープ線: 診断指標5項目の達成

まちづくりの方向性(イメージ図)



本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 奈良主要観光拠点である奈良市中心部と法隆寺という観光施設が立地している
- 奈良市内を訪れている観光客の約6割が鉄道で来訪している(令和元年度)
- 川西町、安堵町周辺には、工業団地が整備

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- 観光地間のシームレスな移動手段の確保をどのように実現するか
- 川西町、安堵町周辺の工業団地への公共交通による通勤の促進が必要
- 平行する奈良交通奈良法隆寺線と大和路線の連携が必要

取組の方向性

—住民向け—
【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 公共交通利用促進を図るため、ラストワンマイル対策の取組の検討・実施

—観光客向け—
【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 公共交通を利用した観光モデルルート of 立案・周知
- 観光施設と連携した公共交通利用促進策の検討・実施
- 鉄道、バスが連携した来訪者を引き込む取組の実施

—企業向け—
【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施

- 企業誘致担当と連携した公共交通利用促進の取組実施
- 企業誘致事業と連携した公共交通利用者拡大に向けた仕掛けの検討
- 公共交通を利用した通勤のPR及びインセンティブ付与の検討

住民向けの取組

取組名	王寺駅を核とした効率的な公共交通ネットワークの構築
取組内容	・交通結節点である王寺駅を拠点とした効率的なモビリティについて検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	近鉄郡山駅移設に伴う公共交通アクセスの検討
取組内容	・近鉄郡山駅の移設計画と連動した公共交通アクセス方法の検討
実施主体・協力主体	大和郡山市、交通事業者、奈良県
実施効果	公共交通の利便性向上
実施期間	R7.4～

取組名	自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進
取組内容	・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良交通
実施効果	バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加
実施期間	R5.3～

取組名	コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知
取組内容	・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、奈良県
実施効果	コミュニティバスの利用者増加
実施期間	R5.4～

観光客向けの取組

取組名	観光イベント開催に伴う利便性の高い公共交通アクセスの提供
取組内容	・交通事業者と連携し、観光イベント開催時に利便性が高い公共交通アクセスを提供
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性の向上、観光客の増加
実施期間	R5.4～

取組名	デジタル技術を活用した新たな交通サービスの導入
取組内容	・デジタル技術を活用した観光MaaS等の新たな交通サービスの導入に向けた取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性の向上、観光客の増加
実施期間	R5.4～

取組名	観光施設と連携した公共交通の利用促進策の実施
取組内容	・観光施設と連携して、沿線にある観光施設の魅力を発信する宿泊旅行商品を造成・PRするとともに利用促進策を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	観光施設の魅力向上、公共交通利用者の増加
実施期間	R5.4～

取組名	路線バス車内モニターによる観光施設案内
取組内容	・路線バス車内のモニターで、観光施設の案内等を行い、観光地の知名度向上とともに利便性向上を図る取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、奈良交通
実施効果	観光地の魅力PR、公共交通利便性向上
実施期間	R5.4～

取組名	観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施
取組内容	・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～

取組名	交通モードを組み合わせた周遊観光の促進
取組内容	・観光客の移動ニーズに合わせて複数の交通モードが連携する周遊観光の取組を検討・実施
実施主体・協力主体	奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者
実施効果	公共交通の利便性の向上、観光客の増加
実施期間	R5.4～

誘致している企業向けの取組

取組名	企業誘致事業と連携した公共交通利用促進及び既存工業団地内におけるバスの運行
取組内容	・企業誘致事業と連携し、通勤需要を取り込めるような取組の検討・実施 ・既存工業団地企業が共同出資するバス運行の検討・実施
実施主体・協力主体	安堵町、川西町、奈良県、奈良交通
実施効果	公共交通利用者数の増加
実施期間	R5.4～